

毎日鏡を見て、ニッコリ笑うのが習慣

笑い療法士1期生の坂本紗有見さんは、歯科医でもある。きっかけは、義父ががんで闘病中だったことだと言う。

「父の容体が徐々に悪くなっていく過程で、笑い療法士の募集を知りました。どうすれば父を励ますことができるのか。また、娘として触れ合えるのか。その思いから応募したので」

まず、教えられたのは、患者さんを病人として扱うのは失礼だということ。おじいちゃん、口ア

ンして、などがその典型。

「今まできちっと生きて来られた方が、たまたま病に倒れただけ。ふつうの大人として接するように。これは、歯科医である私にとっても新鮮でした」

義父も坂本さんと同じく歯科医。仕事の話をするのが、義父にとって喜びだったという。意識がもうろうとしてくると、大好きだったテレビ番組『笑点』のビデオを見せたり、孫の声をテープで聞かせたり。さらには巨人ファンだった

義父のために、ロゴ入りのタオルを枕に敷いたり…。

「ふだんの生活につながるもので励まし、とにかく話しかけました。すると、亡くなる前は、一時的によくなくなることがあるとは言われてますが、長かったこん睡状態から奇跡的に目を覚ましたのです。ニッコリ笑い、話もでき、自分から水分も取れるように」

楽しんで来院する人ほど治りは早い

近親者に関しては、ふだんの生活ぶりや趣味嗜好を知っているだけに、接しやすい。ただし、患者さんは赤の他人。笑い療法士たる者、どう接すればいいのか。

「怖い、つらい、痛いイメージが強い歯科治療。ましてや、私の専門は歯の矯正。口元を隠し、本音を語らず、そのうえ心が傷ついている人が少なくありません。まず、そこを解きほぐすためのカウンセリングから始めます。もちろん、笑顔絶やさずに」

笑い療法士とは何？ どうすればなれるの？

笑い療法士は、笑いで自己治癒力を高め、健康な人の発病を予防する目的で作られた資格。病院、福祉施設、学校、普段の生活の場などで周囲の人々を笑わせ、雰囲気明るく楽しくさせる人に与えられるもの。「癒しの環境研究会」が、昨年秋に医師や看護師だけでなくビジネスマンや教諭、定年退職者などさまざまな職種

を持つ49人を認定した。この資格は書類選考の後、患者心理学や脳の解剖など2日間の講義を受け、「笑い療法士認定評価委員会」により審査される。

問い合わせ先【癒しの環境研究会事務局】
FAX03・3822・8144 <http://www.jshe.gr.jp>



坂本紗有見(さかもと・さゆみ)さん

1961年、札幌生まれ。東京歯科大卒。現在、昨年10月にオープンした「銀座並木通り坂本矯正歯科クリニック」の院長を務める。歯科医としてだけでなく、笑い療法士としても患者さんのケアに専心

歯の矯正には2、3年。長い人だと10年近くに及ぶことがある。

「その間、いろんなコミュニケーションをとります。治療せず、ただ雑談するために来院される方も。そうして共同で治していこうという意識が芽生えると、不思議なことに治りが早くなるんですよ。今、私が実践しているのは、1日3回鏡を見てニッコリすることです」